

関東安陵会の皆さまへ

本部安陵会会長 丸 田 卯禮男

奄美は、すっかり爽やかな初夏の風が吹き、過ごしやすい季節となって参りましたが、皆様には、益々ご壮健でご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて奄美の世界自然遺産登録ですが、5月4日に「登録延期」勧告がなされ予断を許さない状況です。これまで、朝山毅奄美市長(大高 16 期生)をはじめとする各市町村が登録に向けた本格的な活動を展開、県でも奄美のPR動画「黒潮に護られた最後の秘境～」を公開、自然の魅力や保護の重要性などを放映、また、大島支庁では「奄美群島の概況」を発刊するなど、さまざまな取組がなされて来ました。是非とも登録されることを期待しているところです。

一方、これらの活動以前から個人でも奄美の自然環境の大切さを説き、頑張っておられる多くの会員がいます。奄美のエコツアー連絡協議会会長の貴島浩介さん(大高 20 期生)は、奄美の自然と文化を観光メニューに捉え、奄美群島エコツアーガイドの研修や養成講座を計画、認定ガイド化に取り組み、奄美のすばらしさを紹介しております。

写真家の濱田太さん(大高 20 期生、商業 11 期生)は、32 年間、太古の昔から生存している奄美のクロウサギの生態を撮影し、21 年前に雨の中、子ウサギが濡れない様に覆い被さり授乳する感動的なシーンは、胸が熱くなる貴重な記録映像で、国内外でも表彰、特に米国スミソニアン博物館でも表彰を受けたのは、まさに奄美の歴史の一頁を飾る出来事だったと思います。

奄美大島自然保護対策協議会パトロール代表の山下弘さん(大高 21 期生)は、世界的にみても貴重な野生動植物を保護しなければならないと訴え、啓発活動を行い、住民の意識向上に努めておられる奄美希少植物の権威者であります。

奄美海洋生物研究会会長の興克樹さん(大高 40 期生)は、奄美の海洋生物を観察調査、講座を実施、その保護活動に一所懸命取り組み、ウミガメの産卵環境を整えたり、ホエールウォッチングの参加を募り、観光振興にも貢献しております。このように奄美でも安陵会会員が目に見えた活動を行い、自然環境の保護等に尽くしています。

昨年 7 月 1 日、「大高未来塾」に(株)奄美新聞社東京支局長兼サポートゆう代表の永二優子さん(大高 27 期生)、琉球大学教授の押川渡さん(大高 35 期生)、(株)トマス技術研究所社長の福留健仁さん(大高 35 期生)3 名が後輩たちを激励、後輩たちは講義を聴き、尊敬や感動で一杯だったと感想を述べていました。さらに昨年 10 月 14 日、キャリア教育講演は、宇検村教育長の村野巳代治さん(大高 24 期生)が実施されました。

今年、母校は創立 117 年になりますが、今後も、母校の発展に寄与出来ますよう力を合わせて参りましょう。

本日はお招きを頂き誠にありがとうございました。関東安陵会の益々の充実発展を願い、挨拶とします。